

三井のリフォーム住生活研究所長 西田 恭子

久しぶりの新宿御苑

新宿御苑は生まれた所が近かったこともあり、とても懐かしい場所だ。幼い頃、母や姉たちに連れられてよく行った遊び場だが、それから住まいを転々とするうちに、新宿御苑の存在を忘れていた。

私の職場が新宿であることを思うと、忘れていた事自体が不思議な気がするのだが、日々慌ただしく昔を懐かしむ事に思いが至らなかった。

先日、建築家協会主催の、新宿御苑の歴史と建築群についてのレクチャーを受ける機会があった。

そのシンポジウム参加の前に、案内ボランティアの方の説明を聞きながら園内を一周した。一般にも第二・第四土曜日に園内ガイドウォークが開催されている他、この日のみ旧洋館御休所が特別に公開されている。

新宿御苑は明治末頃にヨーロッパ各地の庭を元に洋式庭園が作られている。プラタナスの外側にヒマラヤ杉を左右に配したフランス式整形庭園とそれに続くイギリス風景式庭園は全体で七〇〇坪も続くが、その配

列を先ずばみに設計することで、一、〇〇〇坪にも見える広大な庭園だ。

今までは気が付かなかったが、改めて庭園設計の醍醐味を感じた。

私の知人は毎年春になると、この広場でデパ地下で買いこんだお弁当を囲んで円陣を組み、お花見をしながら同窓会をするのを楽しみにしている。何と言っても入場料が二〇〇円。苑内でお酒が飲めないのは残念だが、幹事には嬉しい企画ではないだろうか。(新宿御苑では酒類の持ち込みは禁止されている)。

その他建物見学として、中国風の建物旧御涼亭や、御茶席、天皇陛下の御休所の旧洋館も中まで見学することが出来る。(旧洋館御休所は特別公開日のみ)。こんなところに中国の建物が? とびっくりしたが、昭和天皇の御成婚記念に台湾在住邦人の献上により建てられている。保存改修工事も一九九八年から始まり二〇〇二年に創建時に近い姿になっている。もちろん耐震補強の工夫や、シロアリ被害など破損・腐朽部の交換は行うものの、出来る

限り創建時の材料での復元が行われ、その工事の様子も確認できる展示がある。

歴史的な建物だけではなく、昨年一月に建て替えられた温室はすばらしい。蒸し暑い室内を想像されている方は、換気による爽やかさに今の建築の力を知る上でもぜひご覧頂きたい。庭園の趣を損なわないアプローチから一歩足を踏み入れると、光と緑のシャワーに加え、現代建築の硬質さをうまく加味させた心地よい空間を散策することになる。設計者の案内で見学できたことは、私にとっては本当に幸せなことであった。

私の記憶にある新宿御苑と違って木々が大きく育ち、緑が増えて年月の隔たりを感じる。子供が学校からもらってきた桜の苗木が今や屋根をも越えて手が付けられなくなっていると嘆いている知人がいた。さすがに新宿御苑は国が維持管理している庭園だ。

行ったことがない方はこちらも、暫く行っていない方も、ぜひ近代建築と管理された庭園を訪ねてみてはいかがだろうか。



西田恭子氏のプロフィール
一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。(社)日本建築家協会正会員。